

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

平成 23 年 5 月

○ 概要

(1) 平成 23 年 5 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,048 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）9.7%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,121 円（伸び率 6.1%）であった。

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,312 億円（伸び率 5.1%）、薬剤料が 3,728 億円（伸び率 11.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 314 億円（伸び率 18.7%）であった。

3 要素分解	処方せん 1 枚当たり薬剤料	処方せん 1 枚当たり薬剤種類数	1 種類当たり投薬日数	1 種類 1 日当たり薬剤料
実数	5,051 円	2.89 種類	19.9 日	88 円
伸び率 (%)	+7.7	▲ 0.0	+3.6	+4.0

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬（3,140 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）323 億円）を薬効大分類別にみると、21 循環器官用薬が 886 億円（伸び幅 73 億円）で、総額・伸び幅ともに最高であった。

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,140 億円 (+323 億円)	21 循環器官用薬 (886 億円)	11 中枢神経系用薬 (453 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (351 億円)
0 歳以上 5 歳未満	45.8 億円 (▲0.25 億円)	44 アレルギー用薬 (17.2 億円)	61 抗生物質製剤 (15.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (7.1 億円)
5 歳以上 75 歳未満	2,014 億円 (+182 億円)	21 循環器官用薬 (561 億円)	11 中枢神経系用薬 (295 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (240 億円)
75 歳以上	1,080 億円 (+141 億円)	21 循環器官用薬 (325 億円)	11 中枢神経系用薬 (157 億円)	23 消化器官用薬 (127 億円)

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,121 円（伸び率 6.1%）で石川県（10,483 円（伸び率 5.1%））が最高で、佐賀県（6,765 円（伸び率 5.1%））が最低であった。

また、伸び率は高知県（伸び率 8.8%）が最高で、山形県（伸び率 3.6%）が最低であった。

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 314 億円（伸び率：18.7%、伸び幅 49 億円）

【後発医薬品割合】

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース	23.0%	+0.9%
薬剤料ベース	8.4%	+0.5%
（後発品調剤率 ^注 ）	48.0%	+0.9%

注）全処方せん枚数のうち後発医薬品を調剤した処方せん枚数の割合

【後発医薬品 年齢階級別】

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+18.7%	+27.1% （60歳以上 65歳未満）	+0.8% （0歳以上 5歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	8.4%	9.2% （65歳以上 70歳未満）	6.1% （10歳以上 15歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】

	全体	最高（薬効大分類）
総額	274 億円	69 億円（21 循環器官用薬）
総額の伸び幅	+46 億円	+13 億円（23 消化器官用薬）
総額の伸び率	+20.0%	+38.6%（42 腫瘍用薬）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	274 億円 （+46 億円）	21 循環器官用薬 （69 億円）	23 消化器官用薬 （54 億円）	12 ビタミン剤 （28 億円）
0歳以上 5歳未満	3.7 億円 （▲0.09 億円）	22 呼吸器官用薬 （0.98 億円）	44 アレルギー用薬 （0.85 億円）	61 抗生物質製剤 （0.85 億円）
5歳以上 75歳未満	176 億円 （+27 億円）	21 循環器官用薬 （45 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（21 億円）
75歳以上	94 億円 （+19 億円）	21 循環器官用薬 （24 億円）	23 消化器官用薬 （22 億円）	12 ビタミン剤 （12 億円）

【後発医薬品 都道府県別】

	全国	最高	最低
処方せん1枚当たり後発医薬品薬剤料	505 円	762 円（岩手県）	398 円（徳島県）
処方せん1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+14.7%	+26.0%（島根県）	+9.7%（沖縄県）
後発医薬品割合（数量ベース）	23.0%	36.3%（沖縄県）	18.5%（秋田県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	8.4%	12.6%（沖縄県）	6.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	48.0%	63.2%（沖縄県）	41.5%（東京都）

〔利用上の留意点〕

(1) 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 23 年 3 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。処方せん 1 枚当たり調剤医療費について、審査支払機関で処理された調剤報酬明細書の全数を集計対象とした数字と、電算処理分のみを集計対象とした数字を比較した場合、その差は 0.0%で非常に小さい。

(2) 表章期間

- 平成 16 年 10 月調剤分からデータは収集しているが、伸び率の分析を主眼としているため、統計表上の表章期間は平成 17 年 10 月以降とした。